



## HYBRID 型(オンライン併用) 特別活動・キャリア教育 授業研究会

京都市教育委員会指定「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究事業」(R2~R3)



### 1 研究主題

なりたい自分になるために  
「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする」  
～自らの学びと成長を見つめる生き方探究パスポートを活用した  
教科と学校行事をつなげるカリキュラム・マネジメントの創造～

### 2 時程

11:00 11:30 12:30 13:50 14:30 14:45 15:45 16:00 17:00

|    |                          |    |          |    |      |    |      |
|----|--------------------------|----|----------|----|------|----|------|
| 受付 | 学校取組 Movies 紹介<br>& 実践報告 | 昼食 | 公開<br>授業 | 移動 | 研究協議 | 移動 | 指導助言 |
|----|--------------------------|----|----------|----|------|----|------|

### 3 学校取組 Movies & 実践報告 11:30~12:30

ウィズコロナの学校取組 Movies の公開上映

<実践報告>

学習計画表から学校再開, 学級伝言板と夏休みの宿題なしの学校取組  
オリンピックノートから見るイワキタオリンピック 2020 の児童の変容

### 4 公開授業 6校時(13:50~14:30)

| 学年 | 領域               | 題材名  | 授業者           |
|----|------------------|--|---------------|
| 5年 | 特別活動<br>学級活動(3)ア | なりたい自分になるために<br>最高学年への道<br>Road to the Saikou. | 5年1組<br>多田 千絵 |

### 5 研究協議 14:45~15:45

グループ別研究協議と全体交流

### 6 指導助言 16:00~17:00

安部 恭子 先生 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(特別活動)



## 7 参加について

参加費については、来校参加及びオンライン参加のどちらも無料とします。ただし、ソーシャル・ディスタンス保持のため、来校いただいでる参観者は100人を上限といたします。

※授業公開につきましては、授業教室以外（同フロア）の教室で、オンライン配信での参観をお願いする場合がございます。

※申込が上限数に達した場合は、来校参加をご遠慮いただくことをお願いし、オンラインでのご参加いただくこともありますので、ご了承ください

## 8 参加申込（11月30日〆切）

下記の申込フォームよりお申込みください。※下記ボタンをクリックして下さい。

### 申込フォーム

または、Eメールで、「授業研究会参加」として、

①所属名 ②職種 ③ご氏名 ④Eメールアドレス（ご自身のもの）

⑤参加形態（来校参加・オンライン参加）をご記入の上、下記までお申し込みください。

[vu849-miura@edu.city.kyoto.jp](mailto:vu849-miura@edu.city.kyoto.jp) 京都市立岩倉北小学校 校長 三浦 清孝

## 9 参加（来校参加・オンライン参加）について

（1）来校参加・オンライン参加ともに、申込受付け後、本校より受付完了メールを送信いたします。

（2）その後、オンライン参加の方については、ZOOM ミーティングのID・パスワードをメールで送信いたします。

※ID・パスワードは、公開授業と研究協議、指導助言は同じものを予定しておりますが、会場都合や参加者数により異なるID・パスワードをお知らせすることになる場合があります。本校からのメールをご確認ください。

## 10 来校参加について

○当日は、マスクの着用と受付での検温等の健康調査にご協力ください。

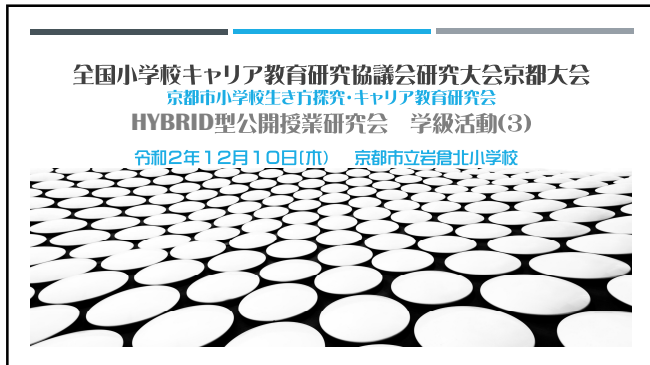
○昼食のお弁当販売は行いません。（昼食会場は準備いたします）

## 11 ハイブリッド型授業研究会の開催にむけて

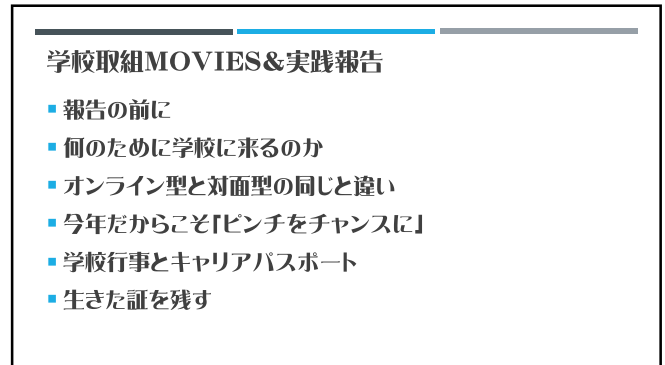
これまで、本校では臨時休業期間中のZoom de Lunchtimeやラジオ体操、学校再開後には、学びの多様化に対応するため積極的にZoomでのオンライン授業の実施、運動会の代替え行事のイワキタオリンピック2020での開閉会式及び集団演技のZoomでのライブ配信や教室と教室を結ぶ多元中継の試みをすすめてきました。

多くの試みを通して、子ども達自身が、オンラインを使用した多様な学び方への理解と活用がひろがり、学び自体のハイブリッド化がすすんでいます。

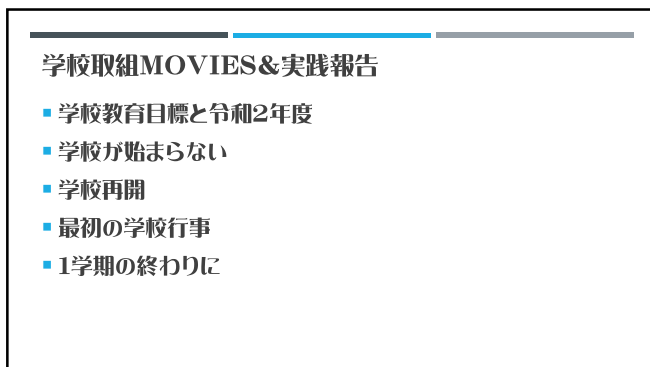
しかしながら、ハイブリッド型（オンライン併用）の授業研究会は、本校にとって初めての試みとなります。配信の不具合等がないように万全の準備をして参りますが、想定外のトラブルの際には、十分な対応ができないこともあります。そのような場合には、大変ご迷惑をお掛けすることになりますが、ご理解いただき、後日ご意見等をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。



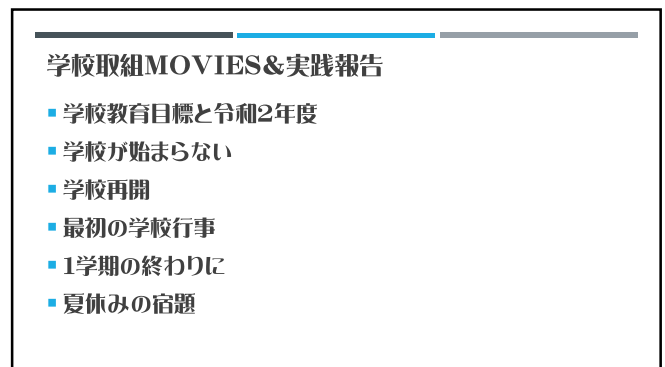
1



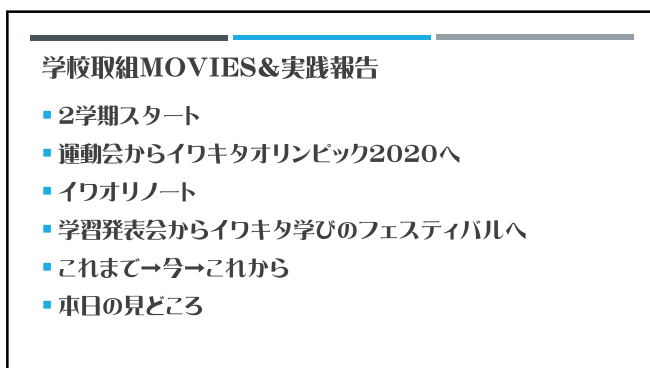
2



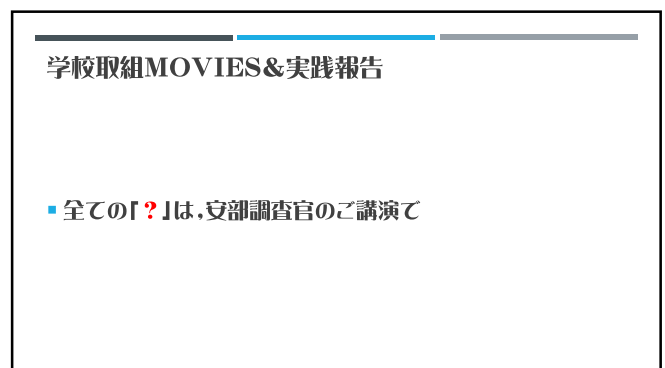
3



4



5



6

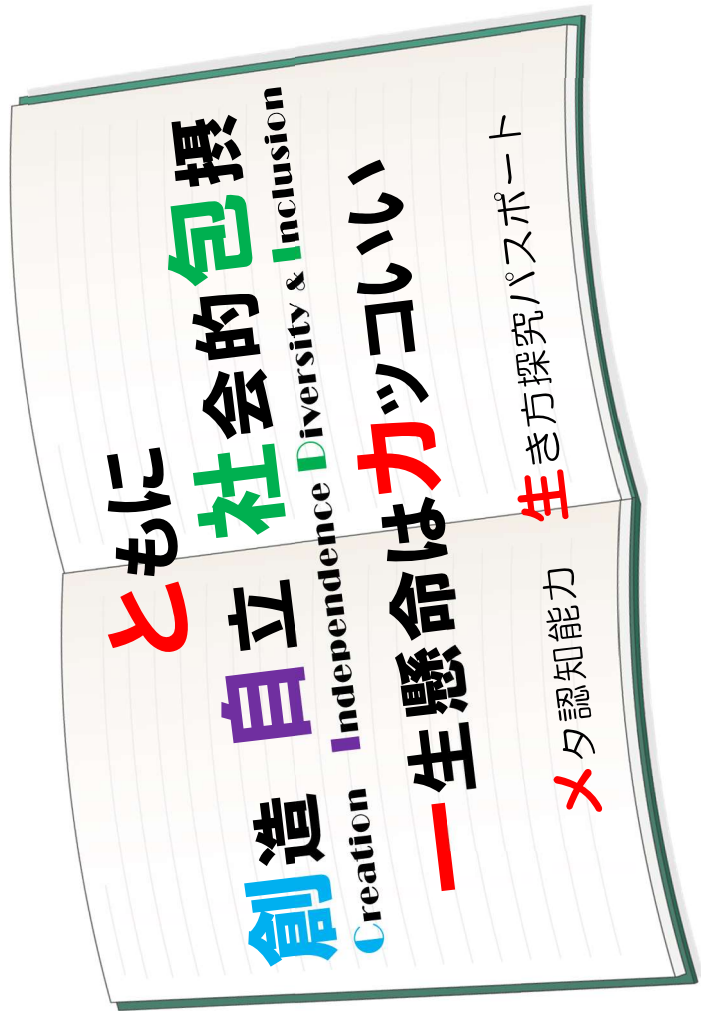
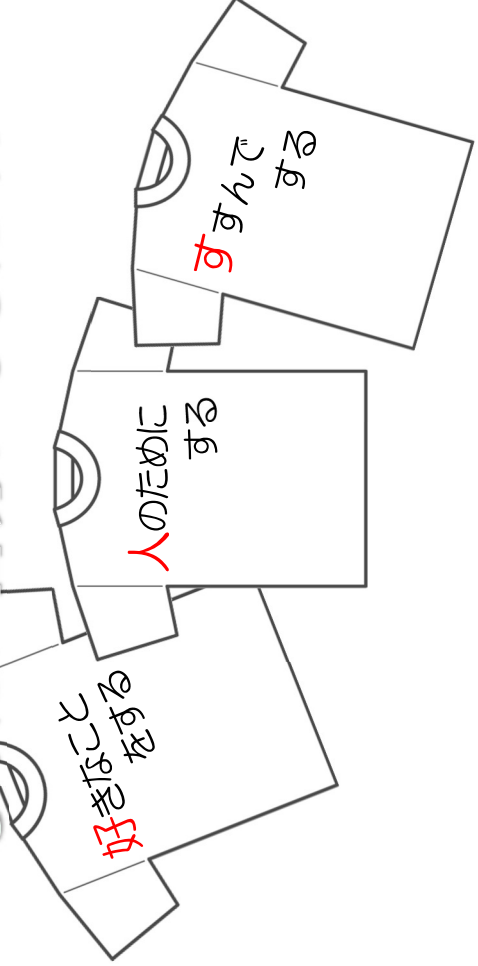


自らすすんで学び ともに築き

豊かに生きる 岩倉の子

めざす岩倉の子像

なりたい自分になるために



# 京都市立岩倉北小学校のグランドデザイン

## 1 「学校教育目標」のめざすもの



上の学校教育目標の構成は、めざす岩倉の子像『なりたい自分になるために「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする』の実現という目的をもった学びをすすめるために、「創造・自立・社会的包摂」をキーワードとして、児童一人一人の成長（キャリア形成）を生き方探究パスポートで可視化し、メタ認知能力を高めていく学校の姿を示したものです。

### （１）「自らすすんで学び」

学校は児童と指導者がともに「学び合う」「高め合う」ところであり、一方通行の「教えるところ」「教わるところ」ではありません。また、指導者が持っている「答え」に導く授業は、岩倉北小学校が目指すものではありません。児童自らが問いを設定しその解決のために学ぶ「主体的・対話的で深い学びの実現」「能動的な学習者（アクティブラーナー）の育成」の実現をめざします。

### （２）「ともに築く」

自ら未来を切り拓く人材を育むことが学校の大きな役割です。対話的・協働的な学びは、その根幹となります。「ともに築く」姿勢・考え方は、誰一人取り残さない質的な豊かさを伴った持続可能な社会づくりをすすめる基盤となると考えています。

### （３）「豊かに生きる」

「豊かさ」とは何か、どのように「生きるか」、一人一人の「生き方」につながる「問い」を探究することは、自分自身の学びや生き方を振り返り「これから」を考える「メタ認知」能力を育むことにつながります。

#### (4)「岩倉の子」

学校教育目標は、教職員だけの目標ではありません。どのような子供を育てようとするのかを教職員、児童、地域・保護者等、岩倉北小学校に関わる全ての人と共有し、めざしたくなるものでなければならぬと考えています。学校教育目標のイメージの共有を「岩倉の子」の言葉に託しました。

## 2 めざす岩倉の子像

「豊かに生きる」ためには、自らの「生き方」を見つめる視点が必要です。「視点」とは、「見方・考え方」であり、「問いかけ」でもあります。どのような「問いかけ」をもって、「生き方」を見つめていくのかを、「なりたい自分になるために」の目的を達成するための姿として、3つの言葉で示しました。

### めざす岩倉の子像 なりたい自分になるために



#### (1)「好きなことをする」

能動的（自主的・主体的・自発的）な行動を指すものであり、「自らすすんで学ぶ」につながるものです。自らすすんで学ぶためには、受動ではなく能動的になることが大切です。内発的動機に基づく能動的（自主的・主体的・自発的）な活動の原動力を「好きなことをする」として示しました。誰しもが「好きなことをする」ことに、努力は惜しみません。

#### (2)「人のためにする」

誰一人取り残さない質的な豊かさを伴った持続可能な社会を創る・豊かに生きるベースとなる考え方です。その基となるのは、自他の肯定と尊重とともに協働的な活動を大切にすることであり、「ともに築く」と歩調を同じくするものです。自分とともに、他者を理解し意識することが「メタ認知能力」の育成にもつながります。

#### (3)「すすんでする」

洛北中ブロックの合言葉「一生懸命はかっこいい」を行動化するための第一歩は、自ら動き出すことです。「主体的」「対話的」「能動的」のどの姿をとっても、第一歩は自分から「すすんでする」ことです。また、指導者として目に見える「動き出し」だけを評価するのではなく、考えようとする、考え始めること、結果が伴わな

ったこともすべてを「すすんでする」の評価として、児童を認める姿勢を大切にしたいです。

### 3 岩倉北小学校でつきたい力の3要素＋生き方探究パスポート



#### (1) 「自らの生き方を創造する力」をつける **Creation**

本校では、「自らの生き方を創造する力」を育成する授業は、単に「夢を語る授業」や「将来について考える授業」と捉えるのではなく、「児童自身が今の自分（これまでの自分）を足場とし、「目的達成（なりたい自分）につなげることができる授業」であると考えています。

つまり、これからの自らの生き方を創造するには、これまでの自分を知る力（メタ認知能力）を育てることが大切であると捉えています。そのためには、自分をしっかり見つめ、自分のしたことが自分の目的に向かっていくか「振り返る力（メタ認知能力）」を土台にした授業づくりを、特別活動を要として各教科・領域の学びと結びつけるカリキュラム・マネジメントと、一人一人の学び（キャリア発達）を可視化することができるポートフォリオの研究をすすめることで実現していきます。

#### (2) 「学びを活かし自立する力」をつける **Independence**

本校の授業づくりは、授業者（指導する側）のもつ「答え」を児童が追求する授業ではないと定義しています。また、児童自身が追求する「答え」も1つに固定するものではありません。児童が自らの「生き方」の探究につながる「答え」を「問い」つづける姿勢を持続することが、求められる授業の姿であると考えています。ここでも、自らの「問い」を求め続けることが、自分の学びを振り返り、これからの自分について考える「メタ認知能力」を発揮する場面であると考えます。学び続ける目的を明確にもち、各教科での学びが、自らの「生き方」につながっているのかを常に問いかけることで、自立を促す授業づくりがすすみ、学びを活かし自立する力をつけることができます。

### (3) 多様性と社会的包摂を理解する力をつける **Diversity & Inclusion**

多様性を理解するためには、「場づくり」が大切です。特別活動、特に学校行事は、「場づくり」として多くの要素を含んでいます。しかしながら、年間指導計画の中でも多くの時間を使う学校行事について指導者の理解が浅く、児童の目的意識が明確でないと、豊かな学びを得ることができません。多様性と社会的包摂を理解する場として、学校行事を可視化するために、「生き方探究パスポート」を活用し、非認知能力を育てていく実践的な場面として特別活動を位置づけています。

また、多様性を理解しただけでは、「人は人、自分は自分」という消極的な多様性の理解にとどまり、人間関係形成能力を伸ばすことはできません。多様性を理解し、一人一人の特性を活かそうとする場づくりが社会的包摂の理解を深めることにつながります。特に、学校行事、集団宿泊活動で設定する「場面と役割」は、自己理解と自己肯定感の醸成、多様性と社会的包摂の理解を体験的にすすめる場として有効であり、キャリア発達の具現化を図る場として積極的な活用をすすめます。

### (4) 生き方探究パスポートの活用

今年度も学校行事を中核として、学級活動と各教科・領域とのカリキュラム・マネジメントをすすめ、生き方探究パスポートや行事ノート等を活用し非認知能力を可視化することにより、「学び」の意味と必然性を理解し、自らの「生き方」を問い続ける児童を育てていきます。

全市で取組がスタートする生き方探究パスポートについても、「どう書くのか」ではなく、児童のキャリア形成をはかるために、一人一人の自己実現とキャリア発達の記録をポートフォリオにまとめ可視化し、メタ認知能力を高めていきます。

## 4 生徒指導の三機能を取り入れた学級づくり

### (1) 「自己決定の場を与える」

「自己決定」とは、自分で決めて実行するということです。常に『相手』と『自分』の両者を中心にすえて行動するということです。岩倉北小学校では、身勝手な「自己決定」ではなく、周囲の人々を理解し大切にすること（**Inclusion**）を根拠にして自分の行動を捉えなおし（メタ認知）、判断し、行動できる場づくりをすすめます。

### (2) 「自己存在感を与える」

「自己存在感」とは、自分は価値ある存在であるということを実感することです。教職員は、子ども一人一人の存在を大切に思って指導することが大切です。子どもの独自性や個別性を大切にしたい指導（**Empowerment** エンパワメント）をすすめます。

### (3) 「共感的人間関係の育成」

「共感的人間関係」とは、相互に人間として無条件に尊重し合う態度で、ありのままに自分を語り、理解し合う人間関係をいう共感的人間関係は、教職員と子どもの関係だけでなく子ども同士の間でも大切にします。（**Diversity**）





## アナログで未来を創る～公立小学校の挑戦～

6月1日から京都市においても学校再開となりました。本校では、から約2か月の間、「**学びを止めるな。Don't stop Learning.**」を合言葉に取組をすすめてまいりました。先月の学校だよりでも、取組をお伝えしておりますが、全児童・全家庭がオンライン会議システムを使えるわけではない公立小学校が、子ども達の学びを止めずに取組をすすめるには、「アナログを駆使するしかない！」また、プリントを渡すだけ、WEB教材を紹介するだけではなく、児童や保護者とのやりとりを意図的に取り入れないと「学び」につなげることができないと考え、学習計画表と学習課題リスト・学習課題の封筒を毎週全児童（家庭）にポスティングし、学校ポストに返却された学習計画表や学習課題に朱書きを入れて、次のポスティングで返却するという手間と時間をたっぷりとつぎ込んだ、「今だからこそできる」取組をすすめてきました。

学習計画表も単なる予定表ではなくバージョンアップを繰り返してきました。

- ① 学習計画表に慣れる、自学自習の内容を入れる
- ② ①+家庭での「役割」を入れる
- ③ ①②+家庭での「役割」についての保護者のコメント欄を作る
- ④ ①②③+ゴールデンウィークの過ごし方を考える
- ⑤ ①②③+新学年の学習「卯月始まる」 e-learning に慣れる
- ⑥ ①②③⑤+e-learning を積極的に活用する Zoom で学校生活リズムづくりをすすめる
- ⑦ ①②③⑤⑥+学校再開を見通した学校生活のリズムを取り戻す

の意図をもって作成をすすめてきました。とてもアナログな方法「文通型」ではありますが、ライブで行うオンライン授業とは異なり、朱書きは何度でも見直すことができ、担任と児童・保護者とのつながりが生み出し、深めることができました。

また、学習計画表に取り組むことで、

- ①児童自身が、学習計画表の取組を通して、一週間の見通しをもつこと
- ②見通しに応じた1日のめあてをもって、家庭学習や家庭生活を送る力をつけること
- ③めあてとふりかえりのつながりの意味を理解し、行動に移すこと
- ④自分の「1週間」の姿を可視化し、なりたい自分に近づくこと
- ⑤保護者がわが子の様子を客観的にとらえ、一人一人の「学び」を応援すること

等の効果があったと感じています。これは、学校生活だけでは培うことのできなかつた力を得ることができたことになり、「今だからこそ」が具体化された取組となっていると考えています。

6月1日からは、「**新しい学びを始めよう。Let's start, a whole new learning.**」として、新たな取組をすすめていきます。2週間を「新しい学び」をつくるための取組期間として、①見通し、②友達と会えることへの楽しみ、③学級への期待を高めていくことができる「新しい」2週間分の学習計画表を作成しました。また、分散登校で会うことのできない友達との交流に、時差のある人とのコミュニケーションをとる手段として「学級伝言板」を設定し、アナログを駆使した双方向コミュニケーションツールとして活用する予定です。

京都新聞（5月25日朝刊）に本校のオンライン学習の取組「**Zoom de Lunchtime**」「**Zoom de ラジオ体操**」を取り上げていただきました。ICTを活用した新たな学びの手法ですが、こちらフリップボードの活用や話し方・聞き方の指導等、オンラインとオフライン（在宅と教室）のメリットとデメリットを意識した、「アナログを駆使する」ことで、新しい学びを創り出すことにつながると考えています。

校長 三浦 清孝



## 令和2年度・令和3年度の校内研究について

### 1 学校教育目標の具現化 「育成を目指す資質・能力」について

#### <学校教育目標>

「自らすすんで学び ともに築き 豊かに生きる 岩倉の子」

#### <育成を目指す資質・能力>

- (1) 自らの生き方を創造する力 「創造」 **Creation**
- (2) 学びを活かし自立する力 「自立」 **Independence**
- (3) 多様性と社会的包摂を理解する力 「社会的包摂」 **Diversity & Inclusion**

#### <昨年度からの改善点>

児童自身が自らの生き方を見つめる「メタ認知能力」を培うために生き方探究パスポートを活用し、教科と学校行事の学びを一人一人の自己実現に結びつけるカリキュラム・マネジメントを、国語科と特別活動の特性を生かしてすすめます。

### 2 研究主題

なりたい自分になるために「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする」  
～自らの学びと成長を見つめる生き方探究パスポートを活用した  
教科と学校行事をつなげるカリキュラム・マネジメントの創造～

### 3 研究内容と方向性

本校の研究で、育成を目指す資質・能力は、

- 自らの生き方を創造する力
- 学びを活かし自立する力
- 多様性と社会的包摂を理解する力

の3つの力です。それぞれの資質・能力を育成するために、以下の研究をすすめます。

#### (1) 「自らの生き方を創造する力」をつけるために

本校では、「自らの生き方を創造する力」を育成する授業（いわゆるキャリア教育）は、単に「夢を語る授業」や「将来について考える授業」と捉えるのではなく、「児童自身が今の自分（これまでの自分）を足場とし、「目的達成（なりたい自分）につなげることができる授業」であると考えています。

つまり、これからの自分をつくるには、これまでの自分を知る力（メタ認知能力）を育てることが大切であると捉えています。自らの生き方を創造するためには、自分をしっかり見つめ、自分のしたことが自分の目的に向かっているか「振り返る力（メタ認知能力）」を土台にした授業づくりをすすめることが重要です。そのために、特別活動を要として各教科・領域の学びと結びつけるカリキュラム・マネジメントとそれらを可視化するポートフォリオの研究をすすめます。

## (2) 「学びを活かし自立する力」をつけるために

本校の授業づくりは、授業者のもつ「答え」を児童が求める授業ではないと定義しています。また、児童自身が追求する「答え」も1つではありません。児童が自らの「生き方」につながる「答え」を「問い」つづける姿勢を持続することが、本校で求める授業の姿であると考えています。

※これは、各教科の授業づくりでも同じ姿勢で取組み、単元構想を練ります。

児童自らが「問い」を求め続けることが、自らの学びを振り返り、これからの自分について考える「メタ認知能力」を発揮する場面であると考えます。学び続ける「目的」を「明確」にもち(何のために学ぶのか)、各教科での学びが、児童自身の「生き方」につながっているのかを常に問いかけることで、自立する力(自立に向かう力)をつけていきます。

## (3) 多様性と社会的包摂を理解する力をつけるために

多様性を理解するためには、「場づくり」が大切です。特別活動、特に学校行事は、「場づくり」として多くの要素を含んでいます。しかしながら、年間指導計画の中でも多くの時間を使う学校行事について指導者(学校体制)の理解が浅く、児童の目的意識が明確でないと、豊かな学びを得ることができません。それらを可視化するために、「生き方探究パスポート」を活用し、非認知能力を可視化し、実践の場面として学級活動や各教科を位置づけて取組をすすめます。

また、多様性を理解しただけでは、「人は人、自分は自分」という消極的な多様性の理解にとどまり、人間関係形成能力を伸ばすことはできません。多様性を理解し、一人一人の特性を活かそうとする場づくりが社会的包摂の理解を深めることにつながります。特に、学校行事、集団宿泊活動で設定する「場面と役割」は、自己理解と自己肯定感の醸成、多様性と社会的包摂の理解を体験的にすすめる場として有効であり、キャリア発達をキャリア形成につなげる場として積極的かつ計画的な取組をすすめます。

## 4 研究の進め方

### (1) 研究仮説

研究主題を具現化するために、次のような仮説を設定します。

- ①単元を通して、授業やその他の様々な場面で「学び」を振り返る時間を設定することで、自らの学びを見つめ直し(見通し)、なりたい自分や学びの目的に向かう授業づくりができる。
- ②学校行事を中核として、学級活動と各教科・領域とのカリキュラム・マネジメントをすすめ、生き方探究パスポートや行事ノート等を活用し非認知能力を可視化することにより、「学び」の意味と必然性を理解し、自らの「生き方」を問い続ける児童を育てることができる。
- ③学校生活において、多様な考えや価値観、様々な情報などから他者と協働して課題・問題を解決する力を学ぶことを重視することで、社会とつながり、社会の変化を受け止め、多様性と社会的包摂の理解を深め、学び続けていく力をつけることができる。
- ④「生徒指導の三機能」を大切にした学級づくりを学びの土台とすることで、課題意識→自己決定→自己実現から共感的な人間関係につなげることができ、誰一人取り残さない豊かな学びをめざす「焦点化指導」の目的を達成することができる。

### (2) 研究の重点

上記の仮説をふまえて、4点を研究の重点とし、生き方探究パスポート(行事ノート・ポートフ

ォリオ) を活用した「学級づくり」「授業づくり」と「カリキュラム・マネジメント」をすすめる。

- ①単元を通して自ら学びを見つめ（見通し）、ともに問題解決をすすめる授業づくり。
- ②質的な豊かさを伴った持続可能な社会を創る担い手を育てため、学校行事を中核とした学級活動と各教科・領域とが互いに機能する往還的な関係を構築するカリキュラム・マネジメントと生き方探究パスポート等の活用の工夫。
- ③多様な考えや価値観、様々な情報を受容しながら、他者・他機関と協働して課題・問題を解決しようとする姿勢を、「社会」や「生き方」にむすびつける多様性と社会性包摂の理解の推進。
- ④主体的・対話的で深い学びのプロセスを可視化（記録）し、児童自身が、「力がついた」と実感できたり、教師が児童の伸びを実感できたりする評価の工夫。
- ⑤誰一人取り残さない豊かな学びを目指す焦点化指導の徹底と、個別に最適化した学びの実現。

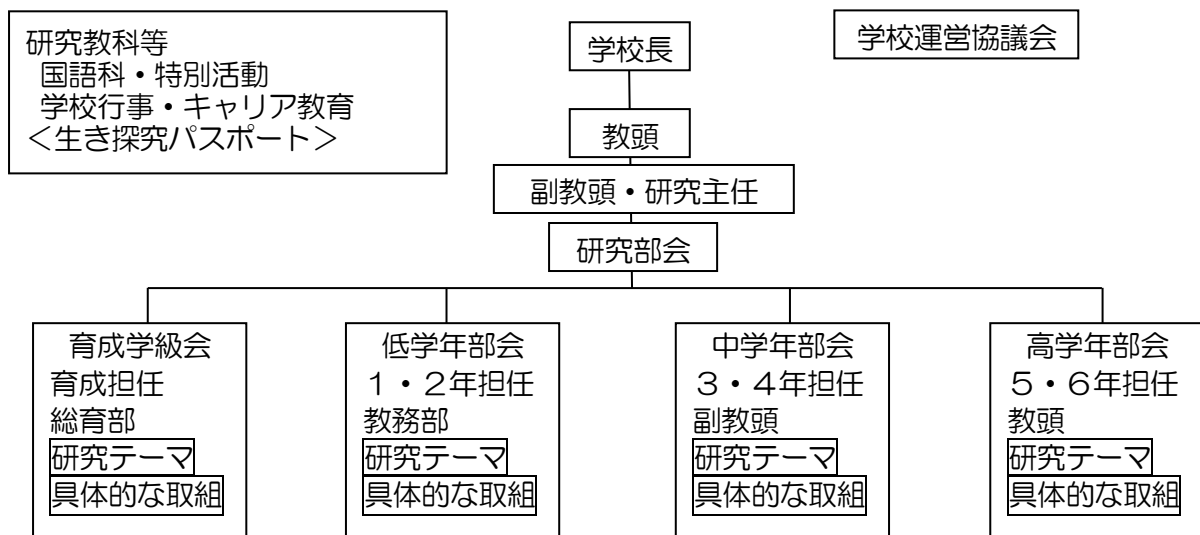
## 5 年間計画（2年間）

| 実施時期        | 研究内容, 研究方法, 成果の公開等  |
|-------------|---|
| 令和2年<br>1学期 | <p>岩倉北小で育成したい資質・能力「自らの生き方を創造する力」「学びを活かし自立する力」「多様性と社会的包摂を理解する力」の定義の共有をはかり、カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れ、国語科・学級活動・学校行事をはじめその他の教科等の授業を連動させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた方策を練る。</p> <p>○研究の方向についての提案と共通理解（4月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの研究成果をもとに「自らの生き方を創造する力」「学びを活かし自立する力」「多様性と社会的包摂を理解する力」の定義を共有する。</li> <li>・「なりたい自分」になるために、「岩倉北小のつけたい3つの力」を可視化し、そのプロセスを記録するものとして生き方探究パスポートを位置づけ、活用の効果をさぐる。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの視点を、「岩倉北小のつけたい3つの力」を働かせる単元構想を設定とすることにより、主体的・対話的で深い学びの実現につながる学校行事・学級活動・教科等との連動をはかる。</li> <li>・児童が「安心」して学ぶことのできる場づくりとして生徒指導の三機能を生かした学級経営をすすめる。</li> <li>・児童自身の生き方探究パスポートを活用した一人一人の自己実現とキャリア形成をすすめる。</li> </ul> <p>○研究計画と研究仮説の構築（4月）</p> <p>○生徒指導の三機能研修会（4月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（4月）</p> <p>○「岩倉北小のつけたい3つの力」について学年部ごとの「姿」を定め、児童に提案する。（5月）</p> <p>○各学年部での研究テーマの構築（5月）</p> <p>○「岩倉北小のつけたい3つの力」を培うカリキュラム・マネジメントを単元関連図の作成で示す。（5月）</p> <p>○生き方探究パスポート、行事ノート、ポートフォリオの活用の検討</p> <p>○国語科の公開授業（7月 指導助言：京都女子大 水戸部教授）</p> <p>○児童の変容を理解するための1学期評価の検討（手段・項目・規準、6月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（7月）</p> <p>○児童の変容を理解するためのアンケート①の実施（7月）</p> |
| 令和2年<br>2学期 | <p>○研究の整理（第1次分析）（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の取組と児童の変容についての分析</li> <li>・アンケート①の結果分析と生き方探究パスポートの活用（ポートフォリオ）の</li> </ul>   |

|             |  |
|-------------|--|
|             | <p>検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表会の指導案検討会</li> </ul> <p>○国語科の公開授業（10月・11月 指導助言：京都女子大 水戸部教授）</p> <p>○運動会・生き方探究パスポートの授業公開（10月）</p> <p>○児童の変容を理解するための2学期評価の検討（手段・項目・規準，11月）</p> <p>○児童の変容を理解するためのアンケート②の実施（12月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（12月）</p>   |
| 令和2年<br>3学期 | <p>○研究発表会の開催（2月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業…全学年，学級活動（1）（2）（3）</li> <li>・研究協議</li> <li>・指導助言…日本体育大学 橋谷教授</li> </ul> <p>○研究の整理（第2次分析）（2月末）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の研究における児童の変容，成果と課題の総括</li> <li>・アンケート②，評価及び研究発表会で明らかになった課題を明確にし，主体的・対話的で深い学びの実現に向けてのさらなる取組を検討する（重点的な取組の検討）</li> </ul> <p>○児童の変容を理解するための3学期評価の検討（手段・項目・規準，2月末）</p> <p>○研究の総括（成果と課題）（3月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（3月）</p>  |
| 令和3年<br>1学期 | <p>2年次（1年次の研究の総括を受けて）の岩倉北小でつきたい力「自らの生き方を創造する力」「学びを活かし自立する力」「多様性と社会的包摂を理解する力」の共有をはかり，カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れ，より積極的に，国語科・学級活動・学校行事をはじめその他の教科等の授業を連動させ，主体的・対話的で深い学びの実現の具体を示す。</p> <p>○2年次の研究の方向についての重点提案と共通理解（4月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次の「自らの生き方を創造する力」「学びを活かし自立する力」「多様性と社会的包摂を理解する力」を共有する。</li> <li>・「なりたい自分」になるために，「岩倉北小のつきたい3つの力」を可視化し，そのプロセスを記録する生き方探究パスポートの積極的活用をすすめる。</li> <li>・1年次に整理した単元関係図について，「岩倉北小のつきたい3つの力」を働かせることを重点に，主体的・対話的で深い学びの実現につなげる学校行事・学級活動・教科等との一層の連動をはかる。</li> <li>・児童が「安心」して学ぶことのできる場づくりとして生徒指導の三機能を生かした学級経営をすすめる。</li> <li>・児童自身の生き方探究パスポートを活用した一人一人の自己実現とキャリア形成をすすめる。</li> </ul> <p>○2年次の研究計画と研究仮説の構築（4月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（4月）</p> <p>○「岩倉北小のつきたい3つの力」について学年部ごとの「姿」を定め，児童に提案する。（5月）</p> <p>○各学年部での研究テーマの構築（5月）</p> <p>○「岩倉北小のつきたい3つの力」を培うカリキュラム・マネジメントを視点に，単元関連図（2年次版）を作成する。（5月）</p> <p>○国語科の公開授業（6月・7月 指導助言：京都女子大 水戸部教授）</p> <p>○児童の変容を理解するための1学期評価の検討（手段・項目・規準，6月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（7月）</p> <p>○児童の変容を理解するためのアンケート①の実施（7月）</p> |
| 令和3年<br>2学期 | <p>○研究の整理（第1次分析）（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の取組と児童の変容についての分析</li> <li>・アンケート①の結果分析と生き方探究パスポートの活用（ポートフォリオ）の</li> </ul>  |

|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会の指導案検討会</li> </ul> <p>○全国特別活動研究協議会研究大会分科会で実践発表</p> <p>○国語科の公開授業（9月～12月 指導助言：京都女子大 水戸部教授）</p> <p>○運動会・生き方探究パスポートの授業公開（10月）</p> <p>○研究発表会の実施（12月）指導助言：日体大 橋谷教授</p> <p>研究発表会を研究の成果を発表する場とし，研究の成果を問い，2年間の研究の総括を行う。</p> <p>○児童の変容を理解するための2学期評価の検討（手段・項目・規準，11月）</p> <p>○児童の変容を理解するためのアンケート②の実施（12月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（12月）</p> |
| 令和3年<br>3学期 | <p>○国語科の公開授業（1月 指導助言：京都女子大 水戸部教授）</p> <p>○研究の整理・総括（2月末）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年次の研究における児童の変容，成果と課題の総括</li> <li>アンケート②，評価及び研究発表会で明らかになった課題を明確にし，主体的・対話的で深い学びの実現度を分析する</li> </ul> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（3月）</p>   |

## 6 組織体制（教職員・保護者・地域など）



※研究連携校の校内授業研究会への参加

国語科：下京渉成小 社会科：安井小 特別活動：松陽小 キャリア教育：新町小・音羽小

## 7 公開授業

### (1) 実施予定日時（令和2年度）

令和3年2月19日（金） 14時00分～ 学級活動（1）（2）（3）各学年

### (2) 内容等

- キャリア教育の要としての特別活動の授業公開※生き方探究パスポートの活用
- 研究協議会
- 指導助言（日本体育大学 橋谷教授）

### (3) 生き方探究パスポートの公開授業（年間，3回）

年3回，生き方探究パスポートを活用した特別活動・学級活動の授業を公開する。





## 第5学年1組 学級活動(3) 指導案

令和2年12月10日(木)第5校時

指導者 教諭 多田 千絵

### 1 題材 「なりたい自分になるために 最高学年への道」

学級活動(3) ア 現在や将来に目標をもって生きる意欲や態度の形成

#### 2 題材について

##### (1) 児童の実態

本学級の児童は、授業中は落ち着いた態度で学習し、人の話を聞こうとする姿勢がある。教師や友達の話も話し手を見て聴くことができている。特に本学級の多くの児童は、様々な背景や困りをもつ仲間に対しても、まず受け入れること、その人の存在を認めようとする気持ちをもっている。

運動会の代替学校行事である「イワキタオリンピック2020」では、6年生と共にイワキタオリンピック係活動や団体演技など活動することで高学年として学校行事を盛り上げるために準備することや当日までの計画を進める大変さと大切さを知り、高学年としての姿を考えるきっかけとなった。

学習発表会の代替行事である「イワキタ学びのフェスティバル」では、イワキタオリンピックの2学年の取組から学年での取組となり、自分たちの手でつくる気持ちをもって取り組んだ。身近な生活と社会とのつながりを考え、SDGsのテーマに自分達が調べたこと・考えたこと・共に取り組んでいきたいことを保護者へ伝えるためにグループに分かれて工夫を凝らした。また各教科においても自分自身の振り返りを大切にしている。

10月には国語科「よりよい学校生活のために」の単元で、岩倉北小学校のみんなが学校生活を送りやすくなるために他学年との関わりをもちたいと考え、「2年生と仲良くなる大作戦」を学級活動(1)に関連付けて企画した。企画の中では、2年生の実態を高学年の視点で考え、喜んでほしい・自分たちも楽しむことができるようにしたいとの思いをもって工夫し、実行することができた。2年生から感謝を伝える手紙をもらい、振り返りでは、「40分のために時間もかけて、大変なこともたくさんあったけれど、2年生が喜んでくれてよかった。」「これからもたくさん遊びたい。声かけをしたい。」と自分の役割としたことのやりがいを強く感じるすることができた。

一方、クラス内での仲の良さは感じられ、安心できる環境で頑張る姿はみられるが、初めてのことに挑戦することや「自分たちがやってやる」という使命感をもって取り組むことを苦手としている。学校生活では、自分からのすすんで挨拶ができていないことをはじめ、小さく固まってしまいがちなのが気になる。本時では、これまで学校行事に取り組んできた中で自分達の役割を果たし、少しずつ自分がやることに自信をつけてきたことから、最高学年へむかってなりたい自分の姿を求め、そのために「今」やってみたいことを意思決定して、実践につなげたい。また、これまで共に学校生活を過ごした仲間だからこそ相談できることや助言できることを話し合い、お互いの「なりたい姿」や「やりたいこと」を共有できるようにしたい。

事前の学習では、4か月後に迫った6年生に進級するにあたって、6年生の1年間を6年生の担任経験のある教諭の話聞き、1年間のイメージができるようにした。そのあと、学習・行事・委員会活動やたてわり活動・人間関係について期待や不安について一人一人の思いを聞くアンケートをとった。その結果、最高学年での学校行事を楽しみにして

いたり、他の地域や色々な人との関わりを楽しみにしていたりするということが分かった。一方で、下級生との関わりや様々な行事を自分たちで計画し、実行していくことを不安に感じている回答もみられた。期待と不安の両面を抱え、最高学年にむかって「なりたい自分」の姿に向き合っているように思う。それぞれが考えている不安を解消し、期待を膨らませるためにこれまでの歩みを生かし、それぞれがイメージする最高学年にむかってなりたいの姿を明確にし、「今」やってみたいことを出せるようにしたい。

## (2) 題材設定の理由

本活動では、5年生として、イワキタオリンピック・イワキタ学びのフェスティバルの2つの学校行事をやり終えた今の自分の成長や強み・弱みをキャリアパスポートやポートフォリオで振り返り、自己理解を深めることから始める。自らの成長を足場としてこれからの自分を見つめる中で期待と不安を抱きながら、最高学年にむかってなりたい自分の姿を前向きに想像し、その姿をクラスで話し合い、お互いを刺激し合って、その姿に近づくための一步を踏み出させたい。そのために、「今」、何をしていきたいのかを考え、意思決定し、実践の一步を踏み出させたい。また、一週間の実践期間の後に振り返りを行い、次のステップに向かわせたい。

「つかむ」では、キャリアパスポートとポートフォリオを活用して自らの成長を確かめた後、事前にとったアンケートの結果を示したのから、学校行事・学習・低学年との関わり・委員会活動やたてわり活動等について最高学年にむけての期待や不安を一人一人が抱えていることが分かるようにする。事前アンケートからその理由を読み取り、成長を足場とすることで、最高学年にむかっている自分の姿を見つめたときに、期待と不安の両方の気持ちが入り混じっていることに気付かせ、その解決への意欲を高めたい。

「さぐる」では、今の自分を足場に最高学年にむかう自分の姿を意識したときに、一人一人が最高学年としての自覚や責任に気づき、なりたい自分に近づこうとすることへの期待と不安の原因をさぐり、その解決をめざしたいという課題意識を高めたい。最高学年にむかう今の自分の姿を追求していきたいとの思いをもつ中で、現在それに直面している6年児童からのメッセージ映像を視聴することで、自分の最高学年の姿のイメージを膨らませたい。6年生のメッセージでは、最高学年としての心構え、逆境に負けず工夫を凝らし学校行事を作り上げた楽しさや、自主学習に楽しんで取り組む様子、下級生との関わりなど今年の6年生ならではの率直な意見を聞くことができるようにする。6年生のメッセージをヒントに自分の少し先の未来の姿を具体的にイメージできるようにしたい。

「見つける」では、最高学年にむかう自分の姿を具体的にイメージし、互いにその姿を伝え合うことで、より広い視野をもって最高学年にむかう「なりたい自分」の姿に向き合わせたい。その上で、残りの5年生での学校生活をどう過ごすかについてもお互いのよさを生かすアドバイスをさせたい。

「決める」では、これまでの自分の成長を振り返り、自分の思う「なりたい最高学年」へのステップとして、「今」やってみたいことを具体的に立てさせることをねらいとする。なりたい最高学年にむかう自分の姿をより具体的にするため、ワークシートに「いつ」「何を」「どのようにするか」を記入する。一人ひとりのなりたい姿に合った取組を考えることができるようにする。また、指導者は、なりたい姿や取組が実態と大きく離れていたり、抽象的になったり、主体性が失われたりしないよう、問い返したり机間巡視したりして、児童に助言を行う。

事後の指導では、最高学年にむかって「なりたい自分」に近づくために、具体的な目標

を設定し、その目標をかなえるための実践に、まずは1週間取り組むことで、目標を立てて頑張ることの大切さや、達成できたことの喜びを感じたり、改善点を見つけて、冬休みの生活につなげたりと、これからの自分自身につなげたい。また、みんなと一緒に自分ではなく、一人一人の姿を捉え、なりたい姿に向かってやってみたいと決めたことに向かう様子を取組カード等で可視化できるようにし、うまくいなくても考え直し、自分をアップデートしていく経験を共有させたい。最高学年までのこれから4か月が貴重なものであると児童が意識し、1日1日を大切にできるようにさせたい。

### 3 第5学年及び第6学年の評価規準

| 観点   | よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能  | 集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現  | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度   |
|------|---|---|--|
| 評価規準 | 希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。 | 希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。 | 現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。 |

### 4 事前の指導

| 児童の活動  | 指導上の留意点   | ◎目指す児童の姿<br>【観点】＜評価方法＞  |
|--|---|---|
| 学校再開から、2つの学校行事を終えた5年生のこれまでを振り返ったり、次のステップ（6年生）へ向けた期待と不安（ドキドキ感）を想起したりするアンケートに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次のステップ（最高学年）へ向けたアンケートを用意し、これまでの自分の成長をポートフォリオやキャリアパスポートで振り返った上で、最高学年を意識した期待と不安（ドキドキ感）を前向きに想起できるようにする。</li> <li>・アンケートの中で、近づきたい最高学年の自分の姿をイメージできるようにする。</li> <li>・イワオリノートやイワフェスノート、体育科ノート、キャリアパスポート等を活用し、これまでの自分の成長に気づくようにする。</li> </ul> | ◎アンケートに答えることで、5年生の生活を振り返ったり、最高学年に向けての期待と不安（ドキドキ感）感を抱いたりして、学校生活への見通しをもとうとしている。<br>【主体的態度】＜アンケート＞ |

### 5 本時のねらい

最高学年にむかって「なりたい自分」に近づくために、これまでの5年生での取組を振り返り、自己の成長に気づき、最高学年としてのなりたい自分の姿を考え、目標を決めて、その目標に向かって今日から取り組みたいことを考える。

6 本時の展開（40分授業）

|  | 児童の活動  | ○指導上の留意  | 資料   | ◎目指す児童の姿<br>【観点】〈評価方法〉 |
|--|--|--|--|------------------------|
| <b>導入</b><br>つかむ(5分)                       | 1 これまでの自分の成長に気づき、最高学年にむけての期待や不安について話し合う。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートやポートフォリオをもとに、自分の成長を確かめるようにする。</li> <li>アンケート結果をもとにして、最高学年にむかう期待と不安を、一人一人が抱えていることに気付けるようにする。</li> <li>学級で期待と不安を共有し、互いに前向きな思いをもつことができるようにする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果の表</li> <li>キャリアパスポート</li> <li>ポートフォリオ</li> <li>学校行事の写真(教室)</li> </ul> |                        |
| 最高学年にむかって「なりたい自分」に近づくために、「今」、自分が実践することを決めよ |  |  |  |                        |
| <b>展開</b><br>さぐる(10分)                      | 2 最高学年になったら、どんなことをがんばっていきたいのかについて話し合う。<br>・学校行事<br>・勉強<br>・下級生との関わり<br><br>3 6年生からのメッセージ映像を見る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの6年生の姿を思い出し、最高学年としての自覚や、責任をもって行動する場面が増えることに気付けるようにする。</li> <li>現6年生のメッセージ映像を用意し、「最高学年としての心構え」や「学校行事」「自主学習」「下級生との関わり」について語ってもらうことで、メッセージをヒントに、今の自分を見つめて、次のステップ（最高学年）のイメージもち、「今」やってみたいことへの思いを高めることができるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>6年生からのメッセージ映像</li> </ul>  |                        |

|   |  |   |               |  |
|---|--|---|---------------|--|
| <p style="text-align: center;">展開<br/>見つける(15分)</p> | <p>4 最高学年にむかって「なりたい自分」の姿やそのために「今」やってみたいことについて話し合う。</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最高学年にむかって「なりたい自分」について語り、これまでともに学校生活を過ごした仲間だからこそ聞いてほしいこと、助言できることを話し合い、お互いの「なりたい自分」と「やりたいこと」を共感・共有できるようにする。</li> <li>・交流が目的とならないようにし、語り合うことで、「なりたい自分」の視野を広げ自分のこれからを自分自身で「見つける」ことができるようにする。</li> </ul>                           | <p>ワークシート</p> | <p>◎最高学年にむかって「なりたい自分」の姿を明確にし、その姿に近づくために、「今」やってみたいことについて考え、前向きに話し合っている。</p> <p>◎お互いの思いを聞き合い、アドバイスをしている。<br/>【思考・判断・表現】<br/>〈話し合い〉</p> |
| <p style="text-align: center;">終末<br/>決める(10分)</p>  | <p>5 グループで話し合ったことをもとに、最高学年にむかって「なりたい自分」に近づくために「今」始めたい実践を決める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が最高学年にむかって「なりたい自分」に近づくための取組を考えることができるよう、机間巡視をし、助言をする。</li> <li>・「今」を大切にするため、事後の指導の取組期間を1週間として、その後に振り返りを行い冬休みと三学期につなげる。</li> <li>・意思決定の具体(「今、実践すること」)が見えにくい場合は、授業後に個別のキャリアカウンセリングを行い、目的(なりたい自分)に応じた取組なるよう助言にする。</li> </ul> | <p>ワークシート</p> | <p>◎話し合ったことを生かして、「今」自分が実践することを意思決定している。<br/>【思考・判断・表現】<br/>〈観察・学習カード〉</p>  |


| 児童の活動   | 指導上の留意点   | ◎目指す児童の姿<br>【観点】＜評価方法＞  |
|---|---|---|
| 意思決定した「今」を意識して、期間を限定（1週間）して実践する。                | <ul style="list-style-type: none"> <li>•教室に一人一人の「今」を掲示するなどして、実践への意欲付けとなるようにする。</li> <li>•実践が簡単すぎたり、継続困難であったりする場合は、途中で目標の変更も促す。</li> </ul> | ◎意思決定したことを前向きに実践している。<br>【思考・判断・表現】<br>＜観察＞   |
| やってみて、自分のよかった点と改善したい点について振り返り、今後の取組について再度考えさせる。 | 取組をポートフォリオに記録して、これからの自分を見つめる材料とする。  | ◎実践を振り返り、最高学年にむかって「なりたい自分」に近づこうとしている自分の現在及び将来に向けての学校生活や日常生活に生かそうとしている。<br>【主体的態度】＜ワークシート＞ |

## 8 板書計画

なりたい自分になるために 最高学年への道

**めあて** 最高学年にむかって「なりたい自分」に近づくために、「今」、自分が実践することを決めよう

| つかむ  | さぐる   | 見つける  | 決める   |
|--|---|---|---|
| アンケートの結果<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>気づいたこと | 最高学年とは<br><br><br><br><br><br><br>6年生からのメッセージ | 最高学年にむかって「なりたい自分」になるために<br><br><br>どんな姿<br><br>そのために<br><br>アドバイス | 今、やってみよう<br><br><br>「いつ」<br>「何を」<br>「どのように」 |

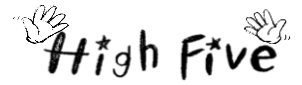


なりたい自分になるために  
～最高学年への道～

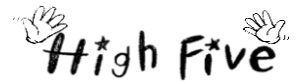
書いた日  
年 月

名前

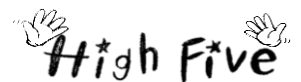
○なりたい最高学年

High Five

○そのために やってみたいこと!

High Five

○これを やってみる! (いつ・何を・どのように)

High Five

○これから

| 日付        |       | コメント |
|-----------|-------|------|
| ___月 ___日 | ☆☆☆☆☆ |      |
| ___月 ___日 | ☆☆☆☆☆ |      |
| ___月 ___日 | ☆☆☆☆☆ |      |
| ___月 ___日 | ☆☆☆☆☆ |      |
| ___月 ___日 | ☆☆☆☆☆ |      |
| ___月 ___日 | ☆☆☆☆☆ |      |
| ___月 ___日 | ☆☆☆☆☆ |      |

○振り返り



# **HYBRID 型**(オンライン併用) **特別活動・キャリア教育 授業研究会**

京都市教育委員会指定「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究事業」(R2~R3)

1 学校取組 Movies&実践報告 11:30~12:30

2 公開授業 6校時(13:50~14:30)  
(1) 指導案

## (2) 公開授業について（指導案作成の裏側）

指導案作成に至る裏事情についてに、解説します。

事前授業では、初めの指導案では見えていなかったキャリアパスポートの活用について、「つかむ」ではキャリアパスポート（本校はポートフォリオ）をつかって、自分の成長を理解する（共感・共有することもできそうです）し、その上で、「最高学年」が見えてくるような形になりました。

事前授業では、子供たちもがんばっていたし、よく考えていたと思いましたが、大きな流れや内容は変える必要はないと思うのですが、授業を見て「最高学年」の扱いと、「決めたこと」と「なりたい自分」の結びつきが、ぼやっとしている児童がいることが気になったので、その部分をポイントに指導案を修正しました（お手元の指導案です）。

特に気になったのは、せっかく5年生としてがんばってきた（つかむで振り返っている）のに、いきなり、最高学年の姿を描くことになり、「今」の自分がぼやけてしまうように感じました。指導案をつくっておきながら…、なのですが、実際にやってみると、その部分が気になりましたので、

「最高学年の姿」や「最高学年の自分」という、最高学年を足場とする表現は、使わないようにして（必要な場合は使っていますが…）、

○最高学年にむかって「なりたい自分」に近づくために…、

○最高学年にむかう自分の姿を…、

等の、足場は「今」の自分に置くように修正をしました。また、まだ先にある最高学年の姿を追求してしまうと、思考や実践が一般的なことになるように見えたので、「自分」と「今」を強調するように修正をしています。5年生として、「イワオリ」と「イワフェス」の2つの大きな学校行事を終えて、力をつけてきた自分について肯定的な自己理解をふかめ、それを足場として、先を見つめたときに、最高学年が見えてくる。これが、今の児童を取り巻く状況であると思います。わざわざ6年生に意識をもっていくことは必要ないように感じています。

そして、最高学年が視野にはいった状況を、「最高学年にむかって」と表現し、「最高学年の自分」として、足場を急に6年生に変えるのではなく、今の自分を足場として、そこから「なりたい自分」に近づくことを実践として考えるようにすればいいかなと考え、修正しています。

そうすると、「なりたい自分」が、きちんと今を足場としてのイメージになり、そこに一歩ずつ近づくための「今」やってみようと思うことを考えさせことができるのではないかと考えています。さて、どうなったのでしょうか。

やはり、先を見すぎて「今」がぼやけると、なりたい自分もぼやけ、そして、結局のところ最高学年の姿もぼやけてしまうように感じています。紙面上は、そうではなくても実際に授業をすると、難しいところです…。

今の自分を鮮明にして、最高学年の姿を見据えて、現在地から一歩踏み出すようにすることが、シンプルでありながら、しっかりと地に足をつけて考えることができる設定であると感じています。

それから、追加したところに「決める」があります。子ども達はよく考え、ワークシートに書き込みをしているのですが、それでも、内容が伝わりにくかったり、思いや考えとずれていたりする場合がありますように感じたので、「決める」で具体がわかりにくかった（見えていない、一般的すぎる※結びついていない）場合は、キャリアカウンセリングのチャンスだと考えて、授業後にゆっくりと話すのがいいかなと思いました。

例として、

①これからやることを、

「みんながやりたくないこととか、困っていることがあったら、自分から行動して、そのことに立ち向かう。」

②具体が全く見えない表記をしていた児童に、これではわからないので、どういうことかを聞くと、

③こんな最高学年になりたいを

「みんなのために何かをする6年生」になりたいと考えており、

④そのためにやってみたいことを

「自分から行動する。苦手なことに立ちむかう」ことが大切であると思っていることがわかりました。

⑥そして、そのつながりで上記の行動を記入したとのことだったのですが、それでも具体が見えないので、どういう場面なのかと聞くと、

「例えば、授業中に先生が、意見がある人といったときに、みんなが少し手を上げにくそうにしていたら、自分が一歩前にでて、すすんで手を上げたいとか、委員会活動で、誰が発表するのかで譲り合っていたことがあったから、今度はそんなことがあったら、自分から「やります」と言いたい。」

と、本当に最高学年にむかって「なりたい自分」に近づく行動の具体を選択しているのだなと感じる事例がありました。が、ここまで理解をするには、授業中のワークシートからだけではわからないことが多いので、授業後のキャリアカウンセリングで、児童理解を深めて、そして、児童の「やってみよう」を支えることができるのではないかと感じました。ということで、指導案の留意点に追加しました。

そして、やはり40分授業は、時間が足りない（授業のテンポが教師主導になってしまい、児童主体で深めたいところの手前で指導を入れてしまう）ので、45分授業として構成することにします。

**研究協議 14:45~15:45**

＜協議の視点＞

- ①本時の授業について
- ②キャリアパスポートの活用と学級活動（3）について
- ③実践交流

**ご講演（指導助言） 16:00~17:00**

○安部 恭子 先生 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官（特別活動）

＜メモ＞

ご参加ありがとうございました

第3回全国小学校キャリア教育研究協議会研究大会  
京都大会 京都市立岩倉北小学校

**キャリア教育の要としての特別活動**

～なりたい自分に向けて努力し、  
自分らしい生き方の実現につなげる～

令和2年12月10日(木)  
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官  
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官  
安部 恭子

**なぜ今、キャリア教育が必要か？**

- ・少子・高齢化による生産年齢人口の減少
- ・人生100年時代の到来
- ・IoT,ビッグデータ,人工知能(AI)などの技術革新の急速な発展に伴うSociety5.0の到来
- ・グローバル化の進展

**産業・経済の構造的変化が加速度を増し、複雑で予測困難な社会の到来。**現在ある職業の多くは、今後なくなっていくという予測。  
こうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、**全ての子供たちの生き方に影響。**

**「働くこと」を巡る若者の現状**

○産業構造や就業構造の変化、職業に関する教育に対する社会の認識、子ども・若者の変化等、社会全体を通じた構造的問題が存在

→ 若者個人のみの問題ではなく、社会を構成する各界が互いに役割を認識し、一体となり対応することが必要。その中で、**学校教育は、重要な役割を果たすものであり、キャリア教育・職業教育を充実していかなければならない。**  
[今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について]  
(中央教育審議会 平成23年1月31日答申)

○ **若年者の失業率は、全年齢の平均と比べて高い。若年無業者は約57万人(平成28年)。**非正規雇用率は、30歳前後と比べて、20歳前後の方が高い。  
総務省統計局「労働力調査」、「労働力調査特別調査」(~平成13年)及び「労働力調査(詳細集計)」(平成14年~)

○ **中学卒で約7割、高校卒で約4割、大学等卒で約3割が、新規学卒就職後、3年以内に離職**  
厚生労働省「新規学校卒業就職者の就職離職状況調査」

○ **進路意識や目的意識が希薄なまま進学する傾向。**  
**職業を意識した時期が遅いものほど、大学への進学理由を「すぐに社会に出るのが不安」「自由な時間を得たい」「周囲の人がみな行く」と考える傾向。**  
出典:Benesse教育研究開発センター「平成17年度 経済産業省委託調査進路選択に関する振り返り調査—大学生を対象として」

**「キャリア」とは何か**

人は、**他者や社会とのかかわりの中で**、職業人、家庭人、地域社会の一員等、**様々な役割**を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。

(中略) このように、**人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。**

また、このように、社会の中で  を果たしながら、  を実現していく過程を「キャリア発達」という。

**キャリア教育の定義**

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

**H28年答申「キャリア教育の課題」**

- 職場体験活動やインターンシップをすることがキャリア教育になっていないか
- 勤労観・職業観の醸成は小学校段階では尚早と考えられていないか
- 「夢を持って」「仕事を調べる」が固定的なキャリア教育の授業になっていないか
- 「キャリア教育⇨進路指導」から「進路(進学/就職)」という狭義な部分のみを捉え、従前の指導を続けているのではないか
- 学校の教育活動全体で行うとされてきたことが、逆に指導場を曖昧にしたのではないか

進路指導は出口指導ではない。  
 受験や入社試験がゴールではない。  
 長期展望に立った人間形成  
 一人一人の社会的・職業的自立を目指す

これまでの「学び」が今の自分に！

今の「学び」が将来の自分や社会に！  
 軸となるように

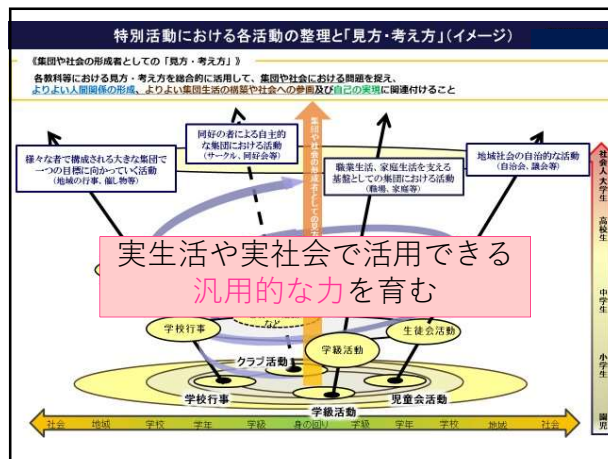
特別活動を要としたキャリア教育の充実

小学校学習指導要領 第1章 総則  
 第4の1 (3)

(3) 児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

学習指導要領 前文

(前略) これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。(後略)



特別活動の目標

第1 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを旨とする。

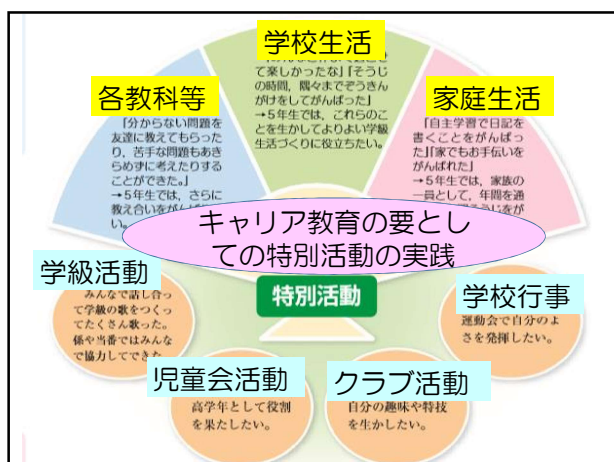
(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

【知識及び技能】

(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。  
 【思考力、判断力、表現力等】

(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の(人間としての)生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。  
 (※( )は中学校)

【学びに向かう力、人間性等】



多様な集団活動の経験の中で、**集団活動の運営や役割を果たす活動**を通して

自分なりの考えを深め、集団の一員としての役割貢献、リーダーシップの発揮などのあり方やめあてをもって取り組むことができるようにする。

↓

場や機会の充実

**「学習や生活の見通しを立て、振り返る教材等の活用」**

**【総則：小中高共通】**

児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること

**【学級活動 内容の取扱い：小中高共通】 2の（3）の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方（在り方）を考えたりする活動を行うこと。その際、児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。**

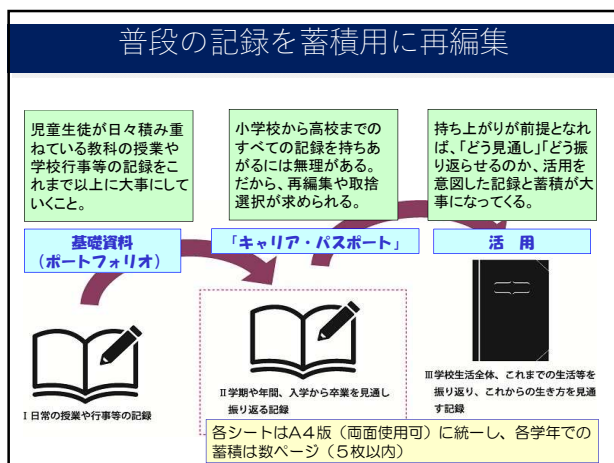
**新学習指導要領解説「教材等を活用する」意義**

**【小（中）学校特別活動解説 抜粋】**

一つ目は、小（中）学校の教育活動全体で行う**キャリア教育の要としての特別活動**の意義が明確になることである。 ←横をつなぐ

二つ目は、小学校から中学校、高等学校へと**系統的なキャリア教育**を進めることに資するということである。 ←縦をつなぐ

三つ目は、児童（生徒）にとっては**自己理解**を深めるためのものとなり、教師にとっては**児童（生徒）理解**を深めるためのものとなることである。 ←児童と教師をつなぐ

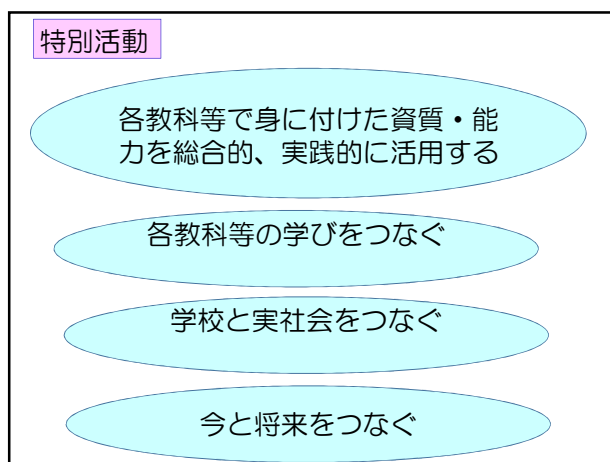
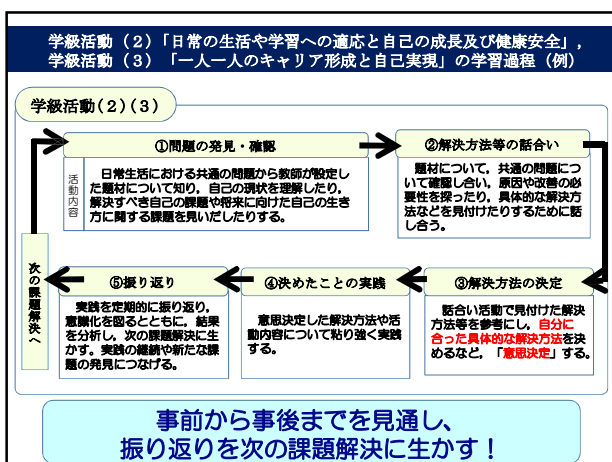


**「キャリア・パスポート」の指導上の留意事項**

学級活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、**学級活動の目標や内容に即した**ものとなるようにすること

記録の活動のみに留まることなく、**記録を用いて話し合い、意思決定を行う**などの学習過程を重視すること

- 活動を振り返ることができるように記録を積み重ねる
- 今の取組を大切にする



学級活動の内容

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

合意形成と意思決定

●学級活動(1)  
議題：児童生徒が問題を発見、「共通の問題」を選定。解決方法等について話し合い、**折り合いをつけて、集団として「合意形成」**を図る。  
☆キーワード 『**自分もよく、みんなもよい**』  
**ことを決める**

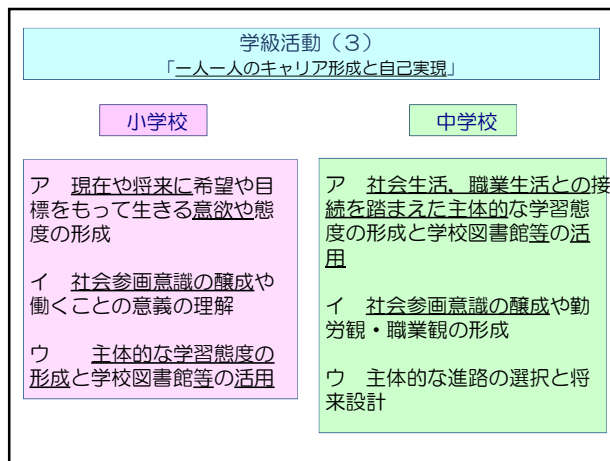
●学級活動(2)(3)  
題材：教師が「共通の問題」として、課題を設定。教師の指導に従って、解決方法を話し合いを通して考え、自己の課題に対する解決方法や努力目標を**一人一人が「意思決定」**する。

【学級活動】

1 目標

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、**学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践**したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを旨とする。

学級での話し合いを生かして**将来の生き方を描くために意思決定して実践する(自己実現につながる力を育む)**





## 4つの段階を踏まえた展開例（学級活動(3)）

## 問題意識をもつ

**つかむ** 題材を自分ごととして捉え、課題をつかむ

**さぐる** これまでの自分を振り返り、自分のよさや可能性に気付く

**見付ける** なりたい自分に近づくための方策や解決方法を話し合いを通して考える

**決める** 自己の努力目標や実践方法を決める  
【意思決定】

## 決めたことの実践

## 学級活動（3）の指導のポイント

- 今の自分と将来の自分をつなぐ
- これまでの自分を振り返り、**自分のよさや可能性、自分の成長**に気付く
- これからの学びや生き方を見通して、**なりたい自分**について願いをもち
- 話し合い**により、なりたい自分に近づくための方策や解決法について、自分の考えを広げたり深めたりする
- 自分に合った具体的なめあてや実践方法を意思決定**する

## 学級活動（3）の実践例（小学校）

## ★「キャリア・パスポート」の活用

「なりたい自分」に向けてめあてを立てて取り組む

⇒題材「5年生になって」（年度当初）

- 「5年生で楽しみなこと」などのアンケートから課題をつかむ
- 昨年度の活動を想起したり、「キャリア・パスポート」を見返したりして、自分たちの成長について話し合う
- 昨年度の5年生の姿を想起し、「なりたい5年生」について自分の思いをもつ
- 「なりたい自分」に近づくために、どんなことに取り組んだらよいか考え、話し合う。
- 一人一人がめあてや「今、がんばること」を**決めて**、実践する

話し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりする。  
話し合ったことを生かして**意思決定**する！

## 学級活動の実践例（小学校）

## ★「キャリア・パスポート」の活用

「なりたい自分」に向けてめあてを立てて取り組む

⇒題材「中学生に向けて」（第6学年 年度後半）

- 事前アンケートを活用して、中学生に向けて楽しみなことや不安なことを話し合う。
- 「キャリア・パスポート」をもとに、6年生の1年間を振り返る
- これまでの自分たちのよさやがんばりに気付く
- 中学生の姿から「なりたい中学生」について話し合う
- 3月末までを見通し「どんなことに取り組んだらよいか」話し合う
- 話し合ったことを生かして**、一人一人が「これから取り組むことを**意思決定**する」

自分に合った具体的な個人目標を立て、  
「なりたい自分」に向けて**努力**する

## 今こそ、創意工夫して実践することが大切！

## 参画意識を高め、自治的能力を育む

特別活動の実践を通して「自分たちの学級・学校である」「楽しく豊かな学級・学校生活を自分たちでつくる」という意識を高める

「何のために話し合うのか」「何のための活動か」を明確にする⇔「やらされる活動」にしない！

## 自己有用感、自己効力感を高める

「役割を果たす」（係活動、委員会活動、異年齢交流活動など）⇒「自分もやればできる」

## 役割意識を高める⇒自己有用感の向上

「互いのよさやがんばりに気付く」「次の課題解決に生かす」ことができるようにする

## 将来に向け、「自分らしい生き方の実現」

「自分のよさに気付く」⇒振り返りの工夫

「なりたい自分に向けて努力する」⇒学級（ホームルーム）活動（3）の充実

## 学校行事の充実

「特色ある学校づくり」「学校文化をつくる」

よりよい学級・学校生活に向け、自分たちの生活上の課題に気づき、創意工夫して自ら解決する力を育む！